

理
窓

理窓教育会報

第43号

平成26年4月1日

東京理科大学理窓教育会

事務局 大学会館 PORTA 神楽坂7階

巻頭言

『魅力ある理数の授業について』

東京理科大学理窓教育会会長 富岡 康夫

平成26年1月12日東京都立戸山高等学校で理科教育振興法制定60周年記念式典が開催されました。この法律は昭和28年8月8日制定され、戦後の物資の恵まれな中で理数の教科の器具を小中高の学校に整備する裏付けとなった法律であり、何よりも教師のやる気を育て、我が国が科学技術創造立国として歩む契機となりました。

主催は全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、日本生物教育会、日本地学教育会、日本数学教育学会、日本理化学協会が集まり記念会を作り、その会長を有馬朗人元文部大臣が引き受けて下さりました。文部科学省の初等中等教育局前川喜平局長様はじめ多くのご来賓も列席されました。

記念講演は東京理科大学教授秋山仁東京理科大学理数教育センター長が「想定外の事態に対応する能力を培うためには」の演題で講演されました。魅力ある理数の授業についてもお話をされて、とても感銘を受けました。理数が好きで、その気持ちを元気に発信できることが魅力ある授業であると気付かされました。

S S H校等の視察等で「新学習指導要領で理数の授業は変わりましたか」と校長先生に伺います。特に課題研究を行うときに生徒自身に力がつくことがデータとして証明されていますので課題研究の実践、双方向の授業、ルーブリック評価の導入などを推奨し、子供の「やる気」の育成を重要視しています。

日本学生科学賞の中央審査やS S H生徒研究発表会では見事生徒の「やる気」を育てている先生にお会いし、それが同窓であることが多く、うれしい限りです。

さて、坊っちゃん科学賞は教育会の先生方が大勢お手伝いをお願いしていますが、今回で6回目を迎えます。葛飾キャンパスで10月26日（日）のホームカミングデーの中で開催します。本学には藤嶋昭学長先生をはじめ国際科学オリンピック等に関係する先生方がおられますので、今回より坊っちゃん科学賞の審査委員に加わって頂くことになりました。物理は北原和夫先生、化学は渡辺正先生、生物は黒田玲子先生です。国際科学オリンピックに出場するような全国の高校生の応募を期待し、皆様からも働き掛けをお願い致します。本学の中根滋理事長が推進する「めざせエベレスト！」“山は登ろうと思わないと登れない”世界で最も魅力のある大学を目指す事にも繋がります。

最後に東京理科大学《数学・授業の達人》大賞は、第6回を数え、全国の算数・数学教育関係者に大変良い影響を与えており、魅力ある授業改善の大きな目標となっています。そこで理科教育についても、東京理科大学《理科・授業の達人》大賞について、開催をしたいと思います。理窓教育会の会員の皆様方に、引き続きのご支援・ご協力をお願いしてご挨拶させていただきます。

(私立文華女子中学・高等学校長)

支 部 報 告

北海道支部総会報告

支部長 (52 理工物) 石谷 克彦

平成 25 年度の総会・懇親会は平成 25 年 10 月 5 日 (土) 午後 6 時から札幌駅北口近くの会場で開催いたしました。今回の参加者は 10 名 (前年比 2 増) でした。

毎年参加者の少ないことに頭を悩ませているところですが、幹事の働きかけが功を奏して、今年は初めて参加する方もいて二桁の参加者数なり、例年よりは賑やかで和やかな会とすることができました。

次年度は今年以上に参加者を増やしたいところですが、北海道の広域性もあり難しいところです。名簿の整理も進んでおり、会員の 1 割程度の参加者を目指したいと考えております。

岩手支部総会その他報告

理窓会岩手支部長 (48 理工数) 菅原 通

平成 25 年度岩手支部総会は平成 25 年 11 月 9 日 (土) 10:00 から盛岡市の「ホテルエース盛岡」で 20 数名の会員の出席のもとで開催されました。

本部からは東京理科大学常務理事村田雄司先生と理窓会副会長増渕忠行先生にご出席いただきました。村田理事からは、キャンパスの体制について詳細な説明をいただきました。増渕副会長からは、支部の現状や 41 関連団体そして海外支部創設では早大や慶応大に遅れていること、ホームカミングデーなどについてご説明いただき、最後に目指すは「世界の理科大」と力強いメッセージをいただきました。

被災後、様々な教育課題が山積する本県教育界です。恒例の講演会では 2 名の会員が講演なさいました。

顧問の原久雄先生からは大学の立場から、日本は世界のいま、そしてこれからもリーダーである。大学進学率が

50% を越えた。学生は多様化している。文科省の指導で小中高は動くが、大学はどうだろうか。各審議会の答申による「小中高：創造力→生きる力」「大学：創造力→学士力」これの育成が日本の教育目標でありその実現が急務である。

事務局員の福士猛夫先生からは、県教育委員会の立場から大震災やその後の教育現場の報告がありました。東日本大震災は 3 月 11 日午後 2 時 46 分、雪交じりの悪天候のときに発生しました。

【気仙小】児童は体育館で合唱練習中、職員の一部は職員室で卒業式の準備中校長の指示で全員 1 次避難所へ移動→防災無線で情報収集し 2 次避難所へ移動→さらに高台の 2 次避難所→さらに上に移動 (15:30 分)、トイレがないため山越えて公民館に移動→夜、保護者に児童をわたした。市教委と連絡がとれたのは 5 日後という悲惨。

【大槌高校】午前授業で 117 名が部活動中、停電になったが自家発電機によりテレビから情報収集。町の映像は生徒に見せなかった。小中生や住民が避難そして火災発生。名簿作成→水の確保→病人の発生→体育館の開放→教室の開放 (病院の入院患者他)→食事の世話 (職員)。欠席生徒そして地震直後、保護者にわたした生徒の死亡 (津波警報発令中には保護者に生徒をわたした)。

3 月 11 日のうちに県教委は沿岸部と盛岡市をむすぶ「岩手の復興教育プログラム」を立ち上げ対応した。

震災後の学校の対応は、学校が地震や特に津波に被災したかどうかで大きく変わります。危機管理上「判断の正しさ」が組織そして個人に求められます。東北 3 県は今後もまさしく復興のなかでの教育であり、大きな課題をかかえています。

その後の懇親会は、自己紹介など楽しいひとときをすごしました。本部から来県された 2 名の先生方ご苦労さまでした。なお、懸案であったホームページが阿部隆行事務局員のご尽力で開設されました。今後はその内容の充実を推進していきます。

秋田支部総会報告

支部長(52 修化) 佐藤 秀子

平成 25 年度の支部総会は、来賓として大学から理事の村田勇司先生、理窓会から会長の山田義幸先生、こうよう会からは秋田支部長の和賀伸司様をはじめ 3 名をお迎えして、10 月 19 日(土)に開催されました。

支部長挨拶のあと、予定した案件(会務報告・会計・役員改選)がすべて承認されました。また案件とは別に、来年は会場を替えて「ホテルパールシティ秋田竿燈大通り」で行うことを確認しました。

総会終了後、村田先生はキャンパス(神楽坂・野田・葛飾・久喜・長万部)の体制(8 学部 33 学科)や今年の志願状況等について、また山田先生は大学と理窓会と卒業生をつなぐ Web ネットワークの過去と現在の比較や将来の姿等についてそれぞれお話し下さいました。その後写真撮影、懇親会と続き、懇親会では、和やかな雰囲気のもと楽しいひと時を過ごすことができました。

今回初めての出席は、昨年に続いて二人目の薬学部出身者と今春卒業したばかりのフレッシュマン(イノベーション研究科)の 2 名です。このように、出身学部も多岐にわたり、また若い方や女性も増加するなど、徐々にではありますが出席者の層が厚くなり会も盛り上がり嬉しき限りです。この明るい兆しが今後のさらなる出席者増に繋がるよう期待しつつ支部総会の報告とします。

なお、中・高校教員数は、理大卒業生の約 5%ということですが、秋田県ははるかにその割合が多く約 35%、教育会は支部組織の中に組み込まれています。

山形支部総会報告

支部長(51 理工機) 布川 元

山形支部には理窓教育会はありませんが、理窓会の多数が教員のため話題も教育界に関わることが多く、良い情報交換と懇親の機会となっています。今年度の理窓会山形支部総会は平成 25 年 11 月 16 日に開催され、理窓会本部より増淵忠行副会長にご出席いただき大学の現状等を教えて頂きました。

今年は置賜地区が当番となり、米沢市から車で 30 分のところにある秘湯、白布温泉の旅館『東屋』を会場に開催されました。平成 24 年度の事業報告、決算報告、25 年度の予算案や役員改選案について協議された他、県支部のホームページ作成や、次年度総会における講演者などについて検討が行われました。ホームページは、支部会員はもちろんのこと多くの卒業生や在學生・保護者の方々にも活用していただけるよう、同窓生の活躍や勤務している会社等の PR をお知らせする場として、また、在學生や保護者が県内企業等の採用状況を知る機会にしたいと考えております。さらに、来年度の総会は今年と同時期に、山形市の『国際ホテル』において、『こうよう会』との共催で講演会を実施することになりました。

引き続き懇親会が行われ、地元でもなかなか手に入らない銘酒『十四代』で乾杯した後、会員の近況報告や大学時代の思い出話で盛り上がりました。今後とも、会員相互の絆をより一層深められるよう活動してまいりますので、ご協力宜しくお願いいたします。

群馬支部総会報告

支部長(55 理数) 中澤 治

理窓教育会群馬支部総会は理窓会群馬支部総会と同時に開催され、その席で理窓教育会群馬支部長を猿谷亮司(51 理物)先生から中澤治(55 理数卒)が引継ぐ事になりました。群馬県の教育界で理科大同窓生は理数系を中心として各教育機関で活躍しております。今後、そのネットワークをさらに広げ深めてまいりたいと思います。

さて、その理窓会群馬支部総会は平成 25

年 11 月 23 日（土）午後 4 時から前橋のアンバーサリーコート・ラシーネで 27 名の会員の出席のもとに開催され、本部からは、岡村総一郎東京理科大学理事と増渕忠行理窓会副会長のお二人にご出席頂き挨拶並びに母校の現況について詳しく説明を頂きました。特に葛飾キャンパスの新設の報告は、これからの学生達が非常に環境の整ったキャンパスで大学生活を送ることができ今後の東京理科大学の発展に大きく関わるものと思っています。また、理窓会からの報告では、facebook や twitter など全世界の卒業生と大学と理窓会が繋がるネットワークに参加しようとの呼びかけもあり、これからは旧態依然とした発想でなく豊かなネットワーク社会の恩恵を積極的にあずかる姿勢も必要と感じた次第です。これは、当日出席した人たちの共通な感想であったと思います。

総会に続くその後の懇親会では、各界で活躍する同窓生の話の輪が広がり、各々の近況報告では第一線で忙しい毎日を送っている人や勇退後の悠々自適の毎日を送っている人など様々な話を互いに聞きながら和やかに会が進行しました。

茨城支部総会報告

支部長（46 理物）小林 康則

【役員会】今年度の理窓教育会茨城支役員会は平成 25 年 4 月 28 日（日）支部長、副支部長、庶務(1 名)出席のもと水戸市ココス東野町店で行われた。

支部長よりの収支決算の報告および承認の後、支部総会の会場、時期、講演者、案内方法（郵送、メール）および議案等が検討された。本年度の支部総会については、理窓会の茨城支部総会が東京理科大学葛飾キャンパスで予定されていることから、それに合流させてもらい是非新キャンパスを見学したいという希望が出された。

その後、理窓会茨城支部長にころよく了承していただき、理窓会茨城支部総会に便乗させていただく形になった。

【理窓教育会支部総会】10 月 27 日（土）10:30

より東京理科大学葛飾キャンパス講義棟 6 階 604 教室において行われた。

大学側からの来賓 3 名（東京理科大学理事・維持会会長森野義男様、理窓会会長山田義幸様、理窓会副会長福田義克様）を含めて 41 名の出席で、そのうち教育会茨城支部関係者は 21 名だった。

理窓会茨城副支部長の小関日出男さんの開会の言葉に始まり、来賓挨拶の後、議事に進み、その中で理窓教育会からの報告をさせていただいた。集合写真撮影、キャンパス見学の後、14:00 から懇親会が開かれた。こよう会副会長三浦東様の挨拶の後、自己紹介や近況報告等楽しい時間を過ごし、最後に肩を組んで輪になって校歌を歌って 16:00 過ぎに散会になった。当日、葛飾キャンパスはホームカミングデーで多数の来場者でにぎわっており、イベントも数多く催されていた。約 1 時間しか見学時間を取れなかったが、活気ある楽しい雰囲気味わえた。

埼玉支部総会報告

支部長（53 理工工化）本多 昇

東京理科大学理窓教育会埼玉支部は、6 月 15 日と 10 月 19 日の 2 回の理事会を経て 12 月 7 日に上尾市の東武ホテルにて理窓教育会から会長の富岡康夫様、理窓会埼玉支部から支部長の長澤智則様をお迎えして参加者 34 名で開催しました。

今年度は、予てからの懸案であった総会日程の変更、会員を中学校まで拡大するなど、重要な議題の審議を行いました。

理窓教育会埼玉支部会の参加者増を図るとともに理窓会埼玉支部の活性化にもお役に立ちたいと支部総会日程を理窓会埼玉支部総会と同日の午前中に同一会場で実施をすることとしました。また、理窓教育会埼玉支部活動の充実と活性化を図るため、中学校教員を会員に含める会則の改訂が承認されました。この改訂により、会員数の増加はもとより、中高連携・中高接続に理窓教育会の活動が活かされ、より充実したものとなることが期待されます。総会後に開催された講演

会には、岩佐教育会研究所の岩佐桂一様を講師としてお迎えし、埼玉県の高校進学の動向についてご講演いただきました。豊富なデータをもとに埼玉県の高校入試について中学・高校ともに参考となるお話を伺うことができました。来年度からの高校、中学校合同の理窓教育会埼玉支部の活動に相応しいものとなりました。このように平成25年度は理窓教育会埼玉支部の発展・充実を期し大きな転換の年となりました。

東京支部総会報告

支部長(48理化) 富岡 康夫

平成25年度の東京理科大学理窓教育会東京支部定期総会は5月26日(日)午前11時30分より、東京理科大学神楽坂校舎3号館333教室で開催した。これに先立って午前10時30分より同教室で理窓教育会の理事会を開催し、書面総会の議案等を了承した。

総会は竹村精治高校部会長の司会で始まった。挨拶を理窓教育会長東京支部長の富岡が行った。今年度も理科系大学で教員採用者が200名を超え、実績の継続と、今後の理窓教育会の発展のために会への積極的参加と会員拡大のお願いを述べた。

次に報告および議事で、平成24年度各部・各委員会の活動報告、坂本功担当理事より全国組織の状況の報告があった。24年度の会計報告と平成25年度の活動方針(案)の説明があった。さらに平成25年度役員(案)について支部長からの提案説明があり、満場一致の拍手で了承された。坂本功担当理事より、平成25年10月27日(日)に葛飾キャンパスで実施の「第8回ホームカミングデー」への参加の呼びかけと「第5回坊っちゃん科学賞」への生徒発表のお誘い、理窓教育会が全面的に支援することについてのお願いがあった。

本総会終了後、会場を1号館17階記念講堂に移動し理窓会東京支部と合流し、総会を実施した。報告では東京理科大学中根滋理事長より世界にはばたく理科大学の説明、山田義幸理窓会会長より理窓会会員がソーシャルネットワークのfacebookで繋がろうとの呼び

かけ、石神一郎企画実行部会長よりホームカミングデーの説明と支援のお願いがあった。

その後は獨協医科大学木村真三准教授による「福島原発事故、2年目を迎えた今」と題した講演があり、山口東京理科大学出身の木村先生の活躍と二本松市の除染の様子などを伺った。

懇親会はこうよう会の皆様も加わり、話の尽きない会であった。特に藤嶋昭学長の世界にはばたく東京理科大学卒業生のお話や光触媒研究所が野田キャパスに開設されたことに一同感動して交流が進んだ会であった。

千葉支部教職員部会からの報告

理窓会千葉支部長(44 理物) 小倉 正敬

【組織を率いる原則】

智に働けば角が立つ、情に棹させば流される。組織における人間管理は簡単ではない。では、智に働いても角の立たない、情に棹さしても流されない方法はないものか。

管理職・校長としてどのような姿勢で諸問題に対応していったら良いのか。その基本姿勢は如何にあるべきか。高学歴化・OA化・高齢化・価値の多元化・過保護化等、今の日本の職場・学校に渦を巻くいろいろな現象を踏まえて、21世紀の新しい管理職・校長像とは何かを考察してみる。

1 情の管理・知の管理

組織を率いる者には、リーダーシップの二大原則、人心掌握のための情の管理と、目標を達成する組織運営のための知の管理が不可欠である。

2 部下を育てる「塔と道と橋」

「塔」とは目標である。塔は高くなければならない。即ち誰の目にもはっきり見えるものでなければならない。同時に美しくなければならない。「道」とはその目標を達成する手段である。道は短い方がいい。それも幅員の広い方がいい。しかも何本もある方がいい。更に変化に富んでいる方がいい。「橋」とはその道の行手に立ちふさがる川、即ち障害を乗り越える特別な方法である。橋は渡りやすい所に在るのがいい。これもいくつもあ

がいい。そしてそれぞれが選んだ道に直結している方がいい。

3 リーダーは方向を示す

校長は方向を示す。What 何をやるのか、を示す。それを受けて部下は方法を考えて実行に移す。How 如何に実行するか、である。リーダーは部下の仕事を奪ってはいけない。

4 改革には覚悟がいる

組織は決して新しいことを好まない。まして組織人はそうである。ぬるま湯が大好きである。現状変化のない池・沼が好きである。意識改革など最も好まれない。

5 世論づくり

学校・校長を取り巻く人間模様には、生徒・保護者・地域社会・PTA・同窓会・旧職員・部下職員・県教委・マスコミ等々がある。これらの集団にはそれぞれの世論が発生する。その各世論を良好に操作しなくてはならない。そのために、説明責任を果たす、PR 広報活動を頻繁に行う。但し、基本的方針としては、「百の策より一の誠」である。

6 部下の師になる

島津斉彬は西郷隆盛を見出し、育てた。そして西郷は、斉彬の死後も自立して歴史の道を、塔に向かって歩き続けた。つまり上司が部下の師に変わったのである。

神奈川支部活動報告

支部長 (51 理化) 細川 秀夫

理窓教育会神奈川支部は、理窓会神奈川支部、神楽会（県立高等学校管理職及び教育行政職の会）と連携を深めながら活動を進めています。

平成 25 年度理窓会神奈川支部定期総会は、平成 25 年 7 月 27 日（土）横浜中華街の傍にあるローズホテル横浜で開催し、参加者は来賓の方を含めて 77 名で盛会となりました。総会は議案の審議の後に特別講演会も開催され、同窓である神沼克伊極地研究所名誉教授による講演「南極を科学する」がありました。昭和基地で越冬された思い出とともに南極や地震に科学の目をあてた貴重な講演を聴くことができました。また、懇親会では山

田理窓会会長、中根理事長、藤嶋学長を始めとする多くの来賓からご挨拶がありました。和やかな雰囲気の中、美味しい中華料理と紹興酒を堪能しながら懇親を深めました。

平成 26 年理窓会神奈川支部新年賀詞交歓会は 87 名の参加者を得て 1 月 25 日（土）に総会と同じ会場であるローズホテル横浜で開催されました。山田理窓会会長、中根理事長、藤嶋学長の挨拶から躍動する大学の現状と大学の発展に掛ける熱い思いが伝わってきました。その後、日本アイ・ビー・エム株式会社相談役の北城恪太郎氏による特別講演と続けました。講演のタイトルは「これからの社会で求められる人材」で、民間や教育界等で活躍する今回の参加者にとって非常に有意義なものでした。

また、平成 25 年度第 1 回神楽会は平成 25 年 7 月 15 日（月）海の日に開催し、同窓の 3 名が叙勲（瑞宝小綬章）の荣誉に輝いたことを祝う会となりました。第 2 回は 12 月 15 日（日）に開催しました。同窓である現職の厚木高校校長による学校経営、特に授業改善に向けた取り組みの講演を拝聴し学校マネジメントの研鑽に努めました。

このように本教育会支部は様々な機会を活用し、教育会会員の交流と資質向上に努めています。

山梨支部総会報告

(53 理物) 橘田 多喜夫

山梨県支部総会は、毎年理窓会山梨県支部総会と合同で開催しています。本年度は平成 25 年 10 月 5 日（土）16 時から甲府市「ニュー芙蓉」で、11 名の参加のもとで開催されました。

来賓として東京理科大学理事岡村総一郎先生、理窓会会長山田義幸先生、東京理科大学理事・維持会会長森野義男先生、諏訪東京理科大学システム工学部長須川修身先生、こうよう会山梨県支部長植野功様をお招きしました。

岡村先生から東京理科大学の現状と将来の展望をお聞きし、特に葛飾キャンパスがで

きて、発展を続ける母校の様子を頼もしく感じました。山田先生からは理窓会の現状と今後、大学と理窓会と卒業生がつながる大きなコミュニティーの形成に向けた展望についてのお話をお聞きしました。また、須川先生からは諏訪東京理科大学の発展状況もお聞きすることができました。森野先生からは維持会の活動状況をお聞きし、また母校の創設を詳しく説明した本の紹介がありました。こうよう会植野支部長からは山梨県支部の活動状況と、理窓会との連携をお話しされました。我々同窓生は、この支部総会を機に、より一層結束を固め支部の発展はもとより、東京理科大学と諏訪東京理科大学の発展、並びにこうよう会との連携に力を尽くす意を新たにしたところです。

本年度も支部総会前に、本会関係者による講演会を実施し、本支部会会員で前衆議院議員坂口岳洋様から国会や国政のお話をお聞きし、楽しい一時を過ごしました。

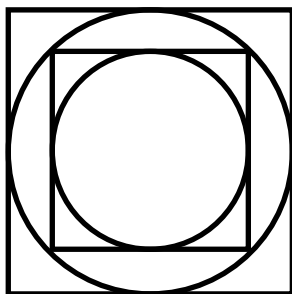
また、今年度もこうよう会山梨県支部会員をご招待し、理窓会・理窓教育会と、こうよう会との親交を深め、この交流を通して、在学生・卒業生への広報に役立てたいと考えています。

静岡支部総会報告

(55 修薬)樋口 和男

平成 25 年度理窓教育会静岡県支部総会は平成 26 年 1 月 25 日(土)に静岡市で開催された。母校報告では本年度の国家公務員試験等の結果に感心し、葛飾キャンパス訪問の報告では皆が是非行ってみたいとの話題となった。また減少している本県教員採用者の減少、支部の活性化のための新会員の募集の課題等が討議された。

議事後の懇談会では毎年恒例となった小学校の算数の問題の提示である。今年は手作りの教材の持参により説明された。



一番外側に正方形 A を書き、これに内接する円 B を書く。さらに円 B に内接する正方形 C を書き、これに内接する円 D を書く。問題は外側の円 B の面積が内側円 D の何倍であるかを小学校 6 年生に分かるように説明することである。

この問題に対し高校の先生から、今回の図形の考え方は今年のセンター試験の解法にも通じる。しかし小学生で培ったはずの柔らかな発想、算数の楽しさを高校生が失いがちであるとの指摘がされた。小学校から大学までに続く数理の魅力を教えることの出来る教員の意味は大きい。小学校では文系の先生方が多いので、純粋な理系の母校出身教員の存在は大きな意味を持つ。母校に理数教育が出来る小学校教員の育成を期待したい。

富山支部総会報告

支部長 (52 理数)辻井 満雄

理窓教育会富山県支部総会は、理窓会富山県支部定期総会と兼ねて開催している。本年度は、平成 25 年 8 月 24 日(土) 16 時から富山地鉄ホテルにて来賓を含め、26 名の参加者のもとで開催された。学生の父兄が中心となっている「こうよう会」から支部長池上和子様、打尾裕子様 の 2 名の初参加と 4 名の新会員により、昨年より 7 名多い会となった。

総会は、本多宗高会長のあいさつに続き、平川保博理事、増淵忠行理窓会副会長からご挨拶があった後、議事に入り、24 年度事業報告、会計報告が承認された。その後、教育会から県下の教育状況について、教員採用状況、退職金の減額、いじめ、学力向上等の観点から報告した。出席者から多くの意見が出され、活発に意見交換をすることができた。講演会の講師を数年に一度中央からお呼びしてはどうかという意見が出された。また、理科大生が県内の会社に U ターンできるよう「こうよう会」と連携していくことの大切さが話し合われた。

議事、協議終了後、吉田透 (46 理・化) 氏による「物を作る」という演題で講演会が開催された。化学を通して物作りに情熱を傾け

てきた様子を語られた。品質はどこにも負けない商品を作り出したのに撤退しなければならなかった悔しさ、転職により一社員から副社長までの道のりなどエピソードを交えながらの話に全員が聴き入った。講師の上司であった本多会長から補足説明があり、本多会長の物作りへの情熱を伺うことができた。

その後、参加者全員で記念撮影後、懇親会へ進み、本多会長の開会の挨拶のあと、乾杯、懇談に入った。懇談の中で初参加の人のスピーチがあり、理科大を盛り上げていきたいと話をされ皆さんの賛同を得ていた。新しい会員が増え、意見交換や懇談など大変盛り上がった会となり、それぞれの会員が親交を深めることができた。今後も、会員相互の情報交換や会員数を増やす努力により理窓会富山支部を盛り上げていくことを確認して閉会した。

理窓会岡山支部教育会の活動について

支部長 (40 理数) 川上 洋一

理窓会岡山支部役員会に於いて、次のような前向きに取り組もうとする意見が出ました。今後世話人を数名決め理窓教育会岡山支部の発足を図りたいと考えています。

- ・現職の教員の住所・氏名・所属先を調べる
- ・支部ホームページ(準備中)でも入会を呼びかける
- ・当面支部総会の前に会を持ったかどうか
- ・部活動の指導に支障のない日を選び懇親会を開いたらどうか
- ・近い将来、理科・数学の教員が授業に役立つ研修会を開きたい

広島支部総会報告

支部長 (47 理数) 河野 正憲

I 教育会支部総会は、平成 25 年 9 月 21 日(土)にセンチュリー21 広島で理窓会支部総会に先立って会員 7 名が出席して開催しました。議事内容は次のとおり。

- 1 平成 24 年度の行事報告および決算報告
- 2 平成 25 年度の行事予定および予算案
- 3 役員改選

II 恒例の支部会員による講演会は「県高等

学校校長協会会長を経験して」の演題で、県教育賞を受賞された前眞一郎元祇園北高等学校長による本県を支える人材育成と今後の高等学校教育の在り方等の講話により研修しました。

III 理窓会支部総会は会員 16 名出席、本部から中根滋理事長、石神一郎理窓会副会長、森野義男維持会会長にお越しいただき、理事長から「日本の理科大から世界の理科大へ」というお話を聞き参加者一同、母校のこれからの発展を確信いたしました。

また、こうよう会から 2 名の参加を頂き、交流を深めました。今後とも東京理科大学で学んだ私たち同窓生は、お互いに縁を大切にして、教育会および理窓会支部会員の輪を広げていきたいと思ひます。

佐賀支部活動報告

支部長(44 理化) 森永 和雄

佐賀県の人口は平成 26 年 1 月で 84 万を割っており全都道府県中 42 位の小規模県である。理科大の在籍学生数も 50 数名と聞き及んでおりその減少ぶりは残念なことである。理窓会佐賀支部も小規模県であり、会員の住所把握ができているのは 210 余名である。そんなこともあって支部活動も固定し、その参加者も少数という状況が続いている。この状況を何とか改善するための方策を役員等で思案しているところである。昨年末に行った役員会で今後の本支部の建て直しのために主に協議したことは下記の 7 点であった。

- (1) 本県の支部活動は会員のみの活動とせず他との連携を図り、その存在の意味を高める。
- (2) 理科大在学生の保護者会「こうよう会」との連携を図る。
- (3) 理科大の新規卒業生の進学・就職状況等を把握することに努め会員数増の足がかりとする。
- (4) 本県への教員採用を目指す者へ「こうよう会」と連携し積極的に採用試験へのアドバイスを行う。
- (5) 特に高校に在職する会員は理科大が実

施している「坊ちゃん科学賞」への応募を積極的に啓蒙する。

- (6) 本県高校卒業生の理科大への受験者数はそれなりにあるものの入学者が少ないことに関して理科大の良さを啓発する方策を考える。
- (7) 本支部役員が知り得た理科大の現況等について、広く会員に伝えると共に「ホームカミングデー」へ会員の派遣を行って、本支部活動の活性化を図る一助とする。

坊っちゃん科学賞について (48B) 長谷川 純一

「理学の普及」に寄せる東京理科大学の理念を象徴する『坊っちゃん科学賞』も第5回となり、新設早々の葛飾キャンパスで「研究論文コンテスト」が盛大に開催されました。

全国 45 校 78 件の応募研究から、厳正な審査を通過した 5 校の高校生が研究成果を高らかに発表してくれました。

千葉県立安房高等学校化学触媒班による「酸化還元電位の変化による触媒の性能の比較の研究」が最優秀賞に輝き、発表校である大阪府立園芸高等学校、愛媛県立東温高等学校、福岡県立鞍手高等学校、長崎県立長崎商業高等学校に優秀賞が授与されました。

いずれも鋭い視点からの真摯な継続研究でしたので、審査にはかなりの時間がかかりました。秋山仁先生の講評には、ノーベル賞発表のような緊張感と期待感が会場を覆い、表彰式には受賞生徒の誇らしげな表情が垣間見られた発表会でした。

また、放送部がメダカの生育状況を調べ、環境問題ドキュメントとして広報活動に取り組んだ発表もありました（長崎商業高等学校）。新しい研究の方向であると話題になりました。

論文審査から、発表会・表彰式の運営に理窓教育会の諸先生方には多大のご協力をいただきました。同窓生が「理学の普及」に貢献する。これも東京理科大学の伝統と思います。

新規採用教員・管理職選考合格者・退職者激励会について

(45B) 松原 秀成

平成 26 年 3 月 8 日（土）理窓教育会東京支部主催の新規採用教員合格者・管理職選考合格者・退職者激励会が PORTA 神楽坂 7 階会議室にて開催された。

東京理科大学中根滋理事長・藤嶋昭学長・山田義幸理窓会会長・矢島尊こうよう会会長をはじめとしてご来賓 8 名、現職・OB 教員、今年度の教員退職者、管理職試験に合格された会員等の出席者 32 名、新規採用教員予定者 50 名、総数 90 名が出席し盛大に行われた。

司会は松原秀成が務めた。會田良三先生の開会の言葉、富岡康夫教育会会長の挨拶に続き、ご来賓の中根滋理事長のご挨拶があり、合格した学生たちへの応援エール「理事長ビジョン 2014 めざせエベレスト！理数教員輩出数No.1の理科大。途中で挫けないでください」が贈られた。



小久保正己先生から合格状況の説明の後、合格者を代表して、新潟県高校数学に合格した宇佐美涼君が、感謝の言葉と教職活動向けの決意表明を力強く宣誓した。

次に教育管理職選考試験合格者を武内愛樹町田市立金井中学校長より紹介された。同時に理窓教育会で実施している管理職選考研修会の様子が報告された。

引き続いて、長谷川純一先生の司会で懇親会に入った。ご来賓としてご出席の藤嶋昭学長からは良い本をいっぱい読みなさいと激励されました。教職支援センター長の眞田克典教授・こうよう会矢島尊会長から励ましの言葉をいただいた。元気な新規採用教師の諸君からは自己紹介と教師としての熱い抱負が述べられ、和やかな雰囲気の下、同窓としての先輩・後輩の絆を深めつつ散会した。

同窓の活躍

国高と校長としての取り組み

東京都立国立高等学校 統括校長
(50 理工・数) 岸田 裕二

副校長として杉並高校(定)、武蔵高校(全)、校長として、教育庁人事部職員課校長長期研修生、目黒高校を歴任し、現在、国立高校の校長として3年目になります。

国立高校は、昭和15年に府立第十九中学校として発足し、今年、創立74年目を迎えた伝統校です。近隣に一橋大学を有する文教地区にあり、春には桜の花びらのカーテンがまちをピンク色に染め、秋には銀杏の葉が黄金色の輝きを放つ大学通りに面した豊かな環境のなかにある学校です。

本校は「清く正しく朗らかに」を校訓とし、自由闊達な校風の下、文武両道の理念の実現を目指しています。質の高い授業、肌理の細かい学習指導と進学指導を推進することにより、全国でもトップレベルの進学実績をあげ、平成15年度には東京都教育委員会より「進学指導重点校」に指定されました。また、都立の星として甲子園出場経験もある硬式野球部を初めとする部活動や来校者が一万人を超す国高祭(文化祭と体育祭)、ベートーベンの交響曲第9番をプロの演奏の下、ドイツ語で合唱する第九演奏会は高い評価を受けています。生徒は学業と課外活動をすべてやりきる強い意志をもって取り組んでおり、「全部やる、みんなでやる」を合言葉に懸命に文武両道の高みを極めようとしています。本校は、これらの質の高い教育活動を通じて、社会に貢献できる21世紀を担うリーダーの育成を目指しています。

本校の昨年度の進学状況は、東京大学22名、京都大学10名、一橋大学15名、東京工業大学10名、国公立大学医学部医学科11名であり、これらの大学を合計したいわゆる難関国公立大学等の合計は68名となっています。特に、東京大学に関しては、現役で理Ⅲに合格した者を含め、前年度に比べて7名増となっています。また、本校の進学状況の特徴は国公立大学志向

が強いことで、特に旧帝大に満遍なく合格していることです。そして、我が東京理科大学へも61名が合格しています。

生徒の進学希望を叶えるための取り組みとしては、まずは授業を大切にするよう指導しています。どの授業も教員により工夫された質の高いものであり、授業内容を理解することが進路実現に直接結びついています。また、本校の3年生は、9月に実施される文化祭のクラス演劇でアカデミー賞(最優秀賞)を取るために命を懸けています。夏休みもほとんどの生徒が登校し、補習等もありますが、文化祭の準備に明け暮れているのが実情です。学習時間が少ない分、授業がすべてであり、そこに集中せざるを得ません。その結果、10月の模擬試験の結果は惨憺たるものですが、そこからが授業で養った基礎力と集中力で成績はぐんぐん伸び、第一希望校へ到達する生徒も多くいます。生徒はこれを「国高マジック」と呼んでいます。

都立高校は、今、「特色ある学校づくり」が求められています。学校としての存在意義を示すことが重要です。そのためには、教職員を最大限に活用し職務を効率的に行い、経営方針の実現に向け組織的な運営や進行管理をしなければなりません。校長のリーダーシップこそが大切です。

中堅上位校の目黒高校と進学指導重点校の国立高校では、進学実績の向上は経営方針の重要な柱です。しかし、そのアプローチの仕方は異なっていました。目黒高校では、まず生活指導の徹底により生徒が落ち着いて学習に取り組む環境づくりと地域からの信頼回復に取り組まれました。国立高校では、生徒の自主性を尊重しながら、部活動や学校行事の質を落とさずにいかに学習時間を確保するかに努めました。

学校経営で一番苦労したのは、いかに組織的に学校を運営していくかということでした。教員は専門職としてのプライドもあり、一匹狼的なところがあります。単に法令に規定された「制度的権威」のみに依存した一方的な指示や命令では動きません。様々な意思疎通の手段を駆使しながら、納得と意欲を持って行動するよう促す働きかけこそが重要です。私は、そこに

管理職としての最大の魅力があると思います。

私は新設の全日制単位制高校の教務主任として新たな学校づくりをしていく中で、責任ある立場で学校経営に携わりたいと思い、教育管理職を目指しました。教頭選考を受けるに当たって、宿泊研修を含め理窓教育会には大変お世話になりました。理窓教育会には同窓生以外にも真剣に教育管理職を目指すものには、誰でも暖かい手を差し伸べるといふ懐の広さがあります。

現在、都立高校ではたくさんの同窓生が教育管理職として活躍しています。特に進学指導重点校 7 校のうち、3 校の校長が同窓生です。しかし、今年度の管理職選考は、A 選考（指導主事等行政系の職への任用）で 1.1 倍、B 選考（原則として主幹教諭の職への任用）でも 1.5 倍に過ぎません。若い同窓生の皆さんには是非とも教育管理職を目指し、東京都の教育の発展に尽力してほしいと思います。

大学との連携

理事 (46OB) 榎本 成己

教員採用試験対策講座は、今年度から、学務部の教職支援センターが大学の事業として主催することとなりました。このため、理窓教育会からは講師を推薦すると同時に、教職課程指導室に所属している理窓教育会会員が運営に携わる形になりました。

以下の講座は、いずれも教職を目指そうとする学生の意欲が高く、それに応える講師の先生方の熱意が漲っていました。

1. 教員採用試験対策講座 3 年生講義コース

平成 25 年 10 月 6 日から 12 月 15 日の日曜日にかけて 9 回実施し、理窓教育会の先生方 16 名が約 70 名の学生を指導しました。今回は、教職教養と専門教養の模擬試験も取り入れ、学生たちの意識高揚を図りました。

2. 私学教員採用試験対策講座

平成 26 年 1 月 14 日、私立学校教員を目指す学生対象等の講座が行われ、理窓教育会の先生方に指導していただきました。また、私立学校に採用されて数年を経た若手にも講師になってもらい、新鮮な情報を学生たちに知らせるこ

とができました。

3. 教員採用試験対策講座合宿コース

平成 26 年 3 月 3 日から 2 泊 3 日の日程で野田セミナーハウスにて行われ、男子学生 66 名、女子学生 24 名が参加しました。講師は理窓教育会の先生方 18 名が務めました。

内容は、午前中が教育課題に対する講義と論文、午後は集団討論・場面指導、個人面接、模擬授業、さらに夜は合格に向けての個人および班活動を組みました。学生たちは、とてもハードなスケジュールの中、充実した 3 日間を過ごし、合格に向けてのモチベーションを高めていました。(合宿の集合写真は次頁に掲載)

4. プレ教員講座

平成 26 年 3 月 8 日、この 4 月から教壇に立つ予定の学生たちに初任者としての心構えを持たせるための講座を実施しました。

冒頭に、藤嶋昭学長先生から激励のお話をいただき、現職校長の竹村精治先生、増田律子先生にご講義をいただきました。

事務局より

1. 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は大学会館 PORTA 神楽坂 7 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂 2-6-1

PORTA 神楽坂 7 階 理窓会事務室内

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

2. 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 小久保正己（編集担当）

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

[メール kokubo@rs.kagu.tus.ac.jp](mailto:kokubo@rs.kagu.tus.ac.jp)

3. 会費の納入について

理窓教育会は会員の皆様の会費(年額千円)で運営されています。郵便振替をご利用ください。口座番号 00160-9-715349

加入者名[東京理科大学理窓教育会]



教員採用試験対策講座合宿集合写真

平成25年度 教員採用試験合格者数

平成26年3月12日 現在

校種 教科	公立							私立				公私 合計
	小学校	中学校・高等学校			特別支援		合計	中学校・高等学校			合計	
		数学	理科	他	数学	理科		数学	理科	他		
北海道		1					1					1
岩手		1					1					1
福島								1			1	1
茨城		2					2					2
栃木		1	1				2					2
埼玉		7	2				9	5			5	14
千葉		16	19		1		36	9	3		12	48
東京都		38	23	2	2	3	68	18	10		28	96
神奈川		3	2				5	3	1		4	9
横浜市		2					2					2
相模原市			1				1					1
新潟		1					1		1		1	2
石川			1				1					1
静岡		1					1	1			1	2
愛知		2					2		2		2	4
三重		1					1					1
大阪府		1					1					1
長崎		1					1					1
合計		78	49	2	3	3	135	37	17		54	189
平成25年度		78	49	2	3	3	135	37	17		54	189
平成24年度	1	89	60				150	30	12		43	193
平成23年度	2	112	26		1		141		6		69	210
平成22年度		89	18	1	1		109	39	8		48	157
平成21年度		48	21	1	3		73	23	4		28	101
平成20年度	4	49	15		3		71	14	2		18	89
平成19年度		28	6				34	24	4		35	69
平成18年度		34	7	1			42	16	2		20	62

昨年度までのデータは最終値、今年度のものは現時点値である。また、合格者は延べ人数である。